



賀 正

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨年中は、諸先輩、御父兄のみなきまには、ひとかたならぬご厚誼をいただきまして、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

この部報「力漕」もお陰さまで初版発行以来二年を迎えました。皆様にも部の現状を知っていただく手助けとなっていれば幸いです。

さて、本年のボート部は、「勝つ為には……」ということ部員一同とことんまで追求してゆく所存でございます。まだまだ未熟ではございますが、尚一層の努力を致すつもりですので、よろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。

同志社大学ボート部部員一同



新しい1年を迎えるにあたって

同志社大学漕艇部部长 岡本博公

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

昨年の『力漕』の本欄で「まず慣れろ」を心がけようと思うといった風なごあいさつを申し上げましたが、この1年をふりかえってすこしは部長としての職責を果たすことができたのだろうか考えると、はなはだこころもとない気がしております。

それでも、この1年はとにかく実戦を見ようと思い、朝日レガッタ・関西選手権・全日本大学選手権の応援に行きました。ボートへの認識もだいぶ進歩しました。今まで艇はてつきり流れるように進むものだと思っておりましたが、そうじゃあないことを知りました。オールが入るたびに、ググツ、ググツといった感じで間歇的に進むことを知りました。そうして艇がグイッと動くたびに、思わず観戦者の手も汗がにじむような迫力を感じました。

実はこの感動は、昨年のインカレ決勝での東大・中央など上位数校の白熱戦を見てのものでした。それまで「ボートはみててもおもしろい」と公言してきましたが、どうやら訂正が必要なようです。やはり、すべてのスポーツと同じで迫力のある接戦は感動的であることを知りました。

残念ながら、昨年のこの大熱戦にわがボート部は並ぶことができませんでした。今年はぜひ手に汗にぎる勝利のレースを展開してほしいものです。

昨年、やはりこの欄に「学生諸君が気軽に研究室に立ち寄って喜びや悩みを語ってくれるのを待っている」といったことも記しました。この1年間、役員の方々の諸君を中心に何人かの部員が研究室でコーヒーを飲み、雑談してゆきました。2校地に別れている不便もあって、若い部員諸君の話聞くことがあまりありません。こ

の方面での努力はもっと必要な、と反省しています。

O Bの皆様には今後とも暖かい御支援を願ひ続けねばなりません。部員諸君ともども新米部長も成長してゆきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

監督 新井喜範

新年おめでとう。二カ月半の秋季合宿アルバイトを終えればしの休息を満喫しておられることと思います。一月の学年末試験が終るといよいよ本格的なトレーニングに入るが今年の課題として技術面とりわけクルー内での漕ぎの統一という点を第一に掲げたい。昨シーズン個々には相応に水を押し技術を身につけていたのだがクルーとして統一できなかったことが不振の大きな理由と考えている。まずイメージを統一しなければならぬ。次に整調及びストロークフォアのポジションが重要である。第二の課題は体力強化中でも持久力向上であり昨年以上の成果を上げなければならない。その為には計画的でハードなトレーニングが必要であり自然練習量の増大ということになる。以上二つの課題を克服するためシーズン当初より乗艇中心ロング漕主体の内容になるだろう。最後にボートは競技の性格上ハードトレーニングに打ち勝ったクルーにしか勝利の権利が与えられないことを忘れてはならない。
ARE YOU READY.

皆んなで、艇友会

同志社艇友会幹事長 石本君夫
最大の行事である総会が今年も近づいてきた。2月11日祝日に京都「鮎鶴」にて開催される。昨年の総会に於いて、高橋前幹事長のあと引き継ぎ、大役を務めさせて頂くことになって1年、始めから困難は予想されたが何んとかボート部への支援体制の活性化を図り強いボートの復活を願って頑張っております。幸い同輩連中は勿論、先輩・後輩の皆さんに色々バックアップして頂けて心強い限りです。わずか1年ですが皆さんにもう一度、艇友会についてどうしても考えて頂きたいと思い簡単に書いてみたいと思います。

「艇友会も負けないで」

この所、ボート部の成績も芳しくないが、原因については他に譲るとしても、ボート部を後援する艇友会自体にも問題が多い。この1年間、最大の懸案は「同志社スポーツユニオン」での20募金の問題であった。この件については最底でも2回、全員に案内させて頂きましたのでよくご存じのことと思いますが、同志社スポーツ部のOB会レースのようなものだ。早く目標達成ゴールした部もあれば、スタート練習している部も有りでかなり対応に差が有ることは事実、幸い艇友会でも皆様の御協力により何んとかゴールイン。一応は予選通過させて頂きました。この様な時にすぐに対応出来る力、体制をいつも練習しておかなければ負けてしまうのである。

「広げよう親睦の輪」

昭和66年には創部百年を迎える伝統あるボート部、そのOB諸君は立派に各界で活躍しています。数多くの業種に渡って経験を積んで頑張っています。今や生きた情報は一番求められています。艇友会はその情報の宝庫のようなもので、聞きたいこと知りたいことが、「先輩」の一言で何んでも相談に乗って頂けるし、又後輩に近況を聞いたり、相談にのってやる事は、どんなにか励ましになることでしょうか。もっとタテ・ヨコのネットワークを充実して、艇友会を通じてより広い親睦を深めることが望まれます。

「総会」に参加を

久し振りに顔を見せて、声を掛け合うことが出来る総会には是非とも出席して欲しい。そして大いに情報を交換して旧交を温めて下さい。2月11日の総会にとかく参加しよう。そこから「戸田でワンパーパス」が始まる。

「第42回国民体育大会夏季大会」

全国一派の締めくくりとしての国体の夏季大会が9月20日から23日までの4日間、「きらめく太陽ひろがる友情」をスローガンに南国沖縄において開催されました。漕艇競技は沖縄北部、大宜味村にある塩屋湾特設漕艇地にておこなわれ、我ボート部からは成年男子ナックルフォアの部に4回生4人が京都選抜の漕手として、そしてあと成年男子舵手付フォア、成年男子シングルスカルなど我ボート部のOBの方々も多数、監督、コーチ、そして選手として出場されました。

我ボート部が出場した成年男子KFは各都道府県から1クルーが出場するいわば国体漕艇競技の中心種目です。

20日からおこなわれた競技において京都選抜は、予選・2次予選とも2位という成績でありました。しかしその2レースとも1位との差は1秒以内という大接戦でありました。

そして試合3日目におこなわれた準決勝。第1レーンには2次予選であたり、おしくもコマ数秒差で敗北をきった宮城の関南会・東北大混成、第4レーンに京都選抜、そして第5レーンに地元沖縄県代表という組み合わせであった。レース展開はまずスタートから前半までは地元沖縄が他クルーを大きく引きはなして独走したが500mをすぎたあたりでは5つのクルーがダンゴ状態という接戦であった。そして800mあたりでは1位あらいは関南東北と京都選抜にしばらく、2次予選の再現のような形となり、2艇がもつれるようにゴールにとびこんだ。しかし……結果はまたもやコマ数秒という差によって2位におわってしまったのです。よって順位決定戦に出場することとなりました。そしてこの順位決定戦において京都選抜は今までのウップンをはらすような漕ぎで1位となり、全体として5位という結果に終わりました。1位はトヨタ自動車でありましたが、他の種目においても優勝するのは全日の決勝クラスのクルーばかりであり、最近の国体のレベルアップには注目すべきものがあります。我ボート部もできうるかぎり国体の方へも参加出場していくべきではないのでしょうか。

コーチング＝セミナーに参加して

二回生 米原栄一

去る11月25・26日、京都産業会館に於て行われたコーチング＝セミナーについて報告します。このセミナーは低迷を続ける関西の漕艇に新しい方向づけをなしたのとして評価できると思います。なぜなら今までには机上の空論に終りがちだった様々な技術を、実践出来るようにするための練習方法についての講義だったからです。今回参加した各団体のコーチは、講師であったアメリカナショナルクルーのコーチより博識な方で、難解な質問にしばしば講師が言葉を見失うこともあったのですが、経験と自信に支えられた講義の内容は、説得力があり有無をいわせないボートの本質がありました。現在私達は、この講義の方針を少しずつ練習メニューに繰り込んで成果を挙げています。そして経験が生み出す様々な効用を痛感しています。私達は経験に4年という期限のある大学クルーです。何かの形で経験不足を補う必要と考えます。そこで創部90余年の伝統をもっと活用したいと思いますが、部内資料が不足しております。予算をいくらか割いてありますので、よろしければ関係書籍の紹介、現役当時の経験等の手記などを合宿所宛てにお寄せ下さい。

大学ジュニア強化合宿に参加して

1回生 杉山伸

11月27日から30日にかけて、戸田のマツダオート東京研修センターでの強化合宿に参加した。講師は日漕理事の北川氏、日漕強化コーチの古川氏で、3泊4日という短い期間であったけれども、運動生理学やリギング、トレーニング方法についての講義、実際の上艇陸上トレーニングと1日中フルに勉強した。

講師の諸先生方が、とくに強調されたことは有酸素能力を向上させることである。つまり心肺機能を高め、持久力のある筋肉をつけることである。同大でも常日頃から有酸素トレーニングをしているが、部員1人1人がもっと有酸素を意識してさらに練習に励むべきだと私は痛感しました。

講義時間外に北川先生に最近の同大の漕ぎをどう思うかと質問すると、「ここ数年 Catchの戻りが大きいので、もったいないな」と指摘された。この点についてもここ数年の反省から、Catchの戻りをなくそうと、Catch姿勢をつくってからシートを前に出すことに注意して乗艇しているので、除々にこの問題を解消しようと努力している。

他の大学の参加者とも、練習方法etc.の情報交換をして、親睦を深め、来年の戸田での再会を約束した。今回の合宿に参加して選手1人1人が運動生理学に

しろトレーニング方法にしる、技術にしる、本を読んだりしてもっともっと勉強し体力と技術の向上に励まなくてはいけないと思いました。

アルバイト

1回生 榊原雅也

恒例のアルバイトが西武百貨店で行われ部員33名全員が仕事に励んだ。今年は全員がギフトのラッピングをすることになり、初めはなれない手つきでしたがそれも徐々に慣れてゆき、後半には余裕をもって仕事が出来ました。平常通りの練習をするのはやや困難なので計画に足りない分は各自、自主トレなどで補うことにし、アルバイトの無い者は従来どうりの練習をし、アルバイトに行くものは朝乗艇練習が終わった後陸トレをしてからアルバイトにでかける。艇の修理などで費用がかさむ中この部費かせぎのアルバイトは重要であってそれと共に百貨店でのアルバイトというのは大変良い社会勉強になりました。全員が同じ所で仕事をするのでふだんのチームワークをふだんに生かして仕事もはかどり社員の方に感謝されました。社員の方や外のアルバイト生たちにもこれぞ「同志社大学ボート部」というところが存分に誇示してきました。



新入部員来たる!!



今年の夏まで、私は勉学・サークル・アルバイトという一般的な大学生活を送って参りました。けれども、何かが入学生来吹っきれず、もの足りませんでした。「今しかない」という気持ちをこのままにしておいてよいものか、と。

アルバイトをしてサークルをして、という大学生活も確かに今しかできないことかもしれません。けれど、私は、今持てる力のすべてを何か一つ大きなことにぶつけてみたかったのです。このような気持ちの整理がついたのは今年の秋でした。それ以来、一時はあきらめていた体育会への夢が再来してきたのです。

「どんな仕事でもひきうけよう。どのような吸いでもかまわない。とにかく、入部を許可してもらえらるなら、どんなことでもしよう。」11月26日、私はこのような決心のもと、入部の申し入れをすべく、合宿所の玄関に立ちました。

百年の伝統を持ち、全国優勝の経験を持つ、当体育会ボート部への中途入部。しかも、2回生の後半からの入部です。時期的にも、環境的にも常識外れであることは十分承知しております。それだけに、決意は固く、覚悟はできています。

体験入部を許可して頂き、合宿所での生活を共にさせて頂いている中で、私は、同志社に来て以来やっと自分の求めていたものに出会えた思いがしています。

今後は、できるだけ早く練習についていけるよう努力すると同時に、合宿生活等ボート部全体の動きに早くとけこみたいと思います。至らない点、出すぎた点は、あらゆる面でどうかご指導をお願い致します。

入部に際し、こうして「力漕」に自分の言葉を載せて頂く機会を与えて下さったことに深く感謝致します。

法学部政治学科2回生 喜多 隆博
(大阪府三島高校出身)

'87年度試合結果報告

朝日レガッタ { 対校エイト 準決勝敗退
Jr " 準々 " "
S, スカル " "

関西漕艇選手権 { 対校エイト 4位
Jr " 予選敗退
シエルフォアA 準決勝敗退
" B 予選敗退
" C "

インカレ { 対校エイト 準決勝敗退
Jr " " "
ダブルスカル 2位

全日本選手権 { ダブルスカルA 4位
" B 予選敗退

新スカル登場!!

昨年度インカレで2位にくい込む健闘を見せたダブルスカルは記憶に新しいところですが、今度は新たに桑野造船の最新型軽量スカル「VERITAS LIBERABIT VOS」を購入しました。

あらゆる無駄をはぶいた構造。スリムな黄色のボディで重さはなんと16kgというスグレものです。

この艇の今後の活躍を乞う御期待!



OBの皆様へお知らせ

1月2日 初漕ぎ会 琵琶湖 9時30分合宿所集合

2月11日 卒業生送別会 京都「鮎鶴」で行われます。奮って御参加下さい。

御結婚おめでとうございます

S57卒 林田尚之氏

編集後記

部報「力漕」も発行以来2年を迎えました。今年はより一層の紙面充実並びに新企画もどしどし盛り込んで行きたいと思えます。つきましては手はじめにOBの皆様の「声の欄」を設ける所存でございますので奮って御寄稿下さい。

部報力漕
1988年1月1日発行
発行 同志社大学ボート部
大津市瀬田3-2-30
(編集委員)
坂本竜一 川崎優子
米原栄一 富山尚弥
配川隆司 大竹 宏
石橋雅信 杉山 伸